



CAMPUS ASIA PROGRAM  
**CAP** 新聞

2015.04  
最終号

編集長・山本すみれ 制作・近藤健一



編集長よりひとこと

2年間の移動キャンパスも終わりました。恒例の学生対談はこれまでの集大成というテーマに選定しました。私も対談の場にいましがた、アジアの学生がそれぞれ客観的な視点から日中韓の明るい未来を考えていることが伝わってきました。また、これまでのバックナンバーも合わせてお読みいただき、私たちの成長や変化を楽しんでいただければと思います。  
(山本すみれ)

つなげる、ひろげる、キャンパスアジア ▶▶▶ FOCUS ON HISTORY.

# 特集 日中韓歴史認識



**キ** ャンパスアジアが始まった3年前から日中韓の関係はひどくなりました。原因のひとつに歴史認識のズレが…。

**吉積** 今日は日中韓の歴史問題について話そうと思います。その中心に歴史教科書の問題が考えられると思いますが、今回は「3カ国共同の教科書は作れるのか？」をテーマに話を進めていきたいと思っています。初めに、日中韓の自国以

外の教科書で勉強した時どんな感じがしましたか。日本の教科書はどんな感じですか？

**坂下** 僕は中高校と一般的な歴史授業を受けてきたのですが、正直、近代史についてはキャンパスアジアを始めてから学ぶようになりました。日本の歴史教育では旧石器時代などの大昔から始まるため、近代史に関しては授業ではあまり扱うことがありませんでした。テストに出るところや単語だけをただ暗記しただけだったのでキャンパスアジアでの近代史の勉強は苦勞しましたね。

**吉積** 教科書というよりも制度の問題があるから近代史については学ばないことが多いよね。じゃあ、中韓学生は日本の歴史教育はどう見えるの？

**崔紫茵** 日本の教科書を学び始めた時思ったのは中国のものとは記述の仕方が全然違うっていうところかな。中国の教科書は政治史、文化史、経済史のように分けられているけど、日本の教科書はみんな

な混在してる。それと中国の教科書は中国の古代史から始まるけど、日本の教科書はそれよりかなり前から始まるので、日本の教科書を学び始めた時少し混乱したかな。ずっと古代の部分ばかりやるので近代史が学べなくてどうかなものか理解できなかったかな。

**江佳業** 日本で近代史学はなかったわけ？ほら、桂島先生の授業で、崔紫茵 ああ…その授業、私選択してない(笑)

**坂下** じゃあ、ハンジエはどう？

**ハンジエ** 韓国でも旧石器・新石器・氷河期の内容から始まるので…そのような時代も大切だと思うけど、韓国でも近代史の部分は時間が全然足りなかったと思う。でも日本でもその部分は同じだったように思える。日本の教科書を見ると韓国と同じように新石器や古生代が出てくるので物足りなさを感じた。また、日本の教科書には日本に対して良くないイ

メージがあった時期についてはほとんど内容が書かれていなくて、そこところが残念だと思ったかな。

**吉積** じゃあ、日本の教科書は古代から扱ってはいけど、自分たちの近代の歴史的過ちについてはあまり記載されていないということだね。

**ハンジエ** 最近、日本の歴史教科書歪曲問題について討論したことがあるんだけど、その時も韓国の立場から見ると日本の教科書には犯した失敗に関しては書かれていなくて、僕も韓国人としてびっくりしたよ。

**崔紫茵** 日本では歴史教科書はいくつか種類があるの？

**坂下** いや、一冊しかないよ。みんなが日本の歴史の授業で使ってたあの教科書。

**吉積** 日本が認めた教科書が何種類もあるみたいだけど、学校がひとつだけ選んでそれを授業で使うからね。

学生たちを見守ってくださった先生方!

つなげる、ひろげる、キャンパスアジア ▶▶▶ FOCUS ON TEACHERS

## 移動キャンパスを終えて…。

この新聞も2年前の創刊からもう7号目になり、そして最終号になるんですね。この発行は金泰勲先生の発案で、移動キャンパス中の学生たちの様子を学生自身で発信するものとして生まれました。

私は、移動キャンパス1年目第1学期(広東外大)の時に引率教員として滞在し、その第1回編集会議に立会い、学生の自主編集・執筆はもちろん、中国では印刷も地元の店と交渉してやってみたらと話をしました。学生たちは、初めての海外

長期滞在による緊張もあつた、くらい真面目に教員の話聞いて、一致協力して想像以上のものができてきました。そのあとは、原稿段階で目を通し、大きな事実誤認などを指摘した記憶が2・3度ありましたが、発行が軌道に乗ったあとは、まあ、ななめ読みぐらいで…。それと、中国の地元の警察の方との緊迫する状況下での交流会(?)、東北の被災地の研修など、この新聞に取り上げてもらいました(新聞ザタ?)。ほんの1・2年前のことですが、

ずいぶん前のことのような。

手前味噌になりますが、このプログラムはどこへ行っても非常に評価され、教員としてもなかなか面白いものになり、特に「自分の学生」といえるような中国や韓国の学生ができたことはとてもうれしいことです。3か国の学生の皆さん、これまで同様、時々けんかをしながら、いつまでも仲良く。みなさんが培った力や人脈は必ず社会の中で生き、それが複雑で、めんどくさい状況であればあるほど光を放つでしょう。もしも



廣澤裕介准教授

明代白話章節の出版・挿絵・読み方。明代知識人の生活を中心に研究。

困難にであつたら、持ち前の笑顔と努力と、そのほかの29人の顔を思い起こせば、何かヒントがでてくるでしょう。

(廣澤裕介)

## 立命館高校生×キャンパスアジア。

昨年6月にCAP生は附属校である立命館宇治高校と立命館守山高校を訪問し、高校生たちと交流させて頂いた(交流内容の詳細は前号CAP新聞等を参照のこと)。その時、宇治高で少し面白い経験をした。この日、男子数名が竹島問題に関する発表を



上野隆三教授

現代中国文化および中国古典文学の研究。主として映画と明清白話小説を中心に研究。

見が非常に対照的で興味深かった。しかし高校生が意見をもち、それを主張できるのは良いことである。さあこれにCAP生がどう対応するか。特に韓国やCAP生の腕の見せ所だ。日本での生活は長くても、若い留学生である彼らに領土問題について声高に日本の主張をぶつける人はいない。だが現実には今回の男子生徒と同様の意見の人が日本には多いことに気づくことのできた貴重な機会だったと思う。しかしこの日は時間に限りがあり、互いの意見を述べるのみで十分な議

論はできなかった。こうした問題の場合、ただ正面から議論し合うことはなかなか終着点が見えない。むしろそれとは別のやり方で、人には様々な立場や様々な考え方があり、ということを伝える。つまり、自分とは違う立場や考え方があることを認めること、これが多文化社会での共生のための条件だということ、を、如何に人に理解してもらうかが重要なのではないかな。

CAPのパイロット学生はわずか30名。彼らのような感覚を身につけた若者をもっと多く育てることが必要だ。来年から予定されている常設化の大きな使命がそこにある。しかしそれでも人数には限界がある。とすれば、CAPを経験した豊かな知見を持った彼らが、自らの経験を人に伝えていくことが最も重要なのではないだろうか。そのためのサポートを、我々も続けていきたいと思う。

※お世話になりました守山の八反先生、宇治の杉浦先生、関係者の方々にこの場を借りて御礼申し上げます。  
(上野隆三)

実はぼくが作ってたんですね

CAP新聞に入魂!

みなさん、こんにちは。パソコンに向かってCAP新聞(最終号!)を制作中の近藤です。今、私の両目から熱い涙が込み上げてきています。あと数行!あと数行で終わる!従来より倍の8ページはヤバかった。そんな最終号は学生だけでなく両親や先生方にもお願いして内容超豊富です。本紙は、移動キャンパスが始まった13年2月から各学期ごとに1号ずつ発行するようになりました。当初は読者が一体誰なのか検討がつかず、2号は中国語で作ってみるという悲惨な事件もありました(笑)。でも少しずつ多くの方々の目に届くようになり続けてきて良かったと思っています。最後になりましたが、これまで本紙で原稿を書いてくれたCAP学生のみなさん、お疲れ様でした。そしてたくさんのご協力とご声援を送って下さった読者のみなさま、教職員のみなさまに感謝致します。本当にありがとうございました。

(近藤健一)





山本 郁子  
文学部日本文学専攻。キャンパスアジア初学期で日本人学生のリーダーを務める。

# 突撃 中国広州!! インターンシップ記

広東にある外語大学の中国人学生を対象に行われたアンケートを元に、彼らの就職観を分析しました。同じく就職を控える学生として、彼らの回答を

日本の市場の違い、苦手意識ばかりだった経済や法律のことなど、毎日たくさんの方々に多くのことを教わりました。また、直接職場を伺うことで、海外のオフィスの雰囲気や、設備や規則の違いを感じることができました。また、パナソニック主催の日本でのインターンシップに志望する中国人学生の面接にも立ち会わせていただきました。普段は、「見られる側」として就職活動を行っている私たちが、「見る側」となって面接に立ち会うことは、とても貴重な体験でした。

業訪問の際に、ある企業の方に「海外で働いていて難しいことはないですか」と尋ねたところ、このような答えが返ってきました。「自分の理解や常識を超えることが起こったら、自分の考え方をばらばらに因数分解して、もう一度再構成すればいいだけのことだ。」自分の考え方をばらばらにすることは決して簡単ではないでしょう。しかしこの言葉もまた、常に心を開き、感情に正直になり、新しいことを素直に受け入れることの大切さを教えてくれます。海外で働くことは、やはり容易ではなく、苦労が付き物です。しかし、その難しさすら楽しんでいる先輩方の姿はとても印象的でした。私も自分の気持ちに正直に、環境の変化を楽しみながら海外で働きたいと強く感じました。

(山本郁子)

昨年末、私は中国・広州にあるパナソニック(保聖那人才服務上海有限公司 広州分公司)で8日間にわたるインターンシップに参加しました。2年間の移動キャンパスを終え、いよいよ迎えた海外インターンシップの機会に、学生たちはそれぞれ期待を胸に発ちました。パナソニックでは、立命館大学の卒業生である山内奨さんがとても温かく迎えてくださりました。パナソニック広州での業務は、主にアンケート分析と企業訪問、そして面接への同席でした。アンケート分析では、

通じ「理想と現実のギャップ」という課題点が見えてきました。業務内容や給与額といった希望と、就職状況や業種別の給与額といった現実に折り合いをつけていくことが、学生にとっての課題であり、また企業にもそれらの情報を積極的に発信していくことが求められていると感じました。企業訪問では、上海江崎グリコや富士ゼロックス、トヨタなどに訪問させていただき、そこで働く日本人の方々に様々なお話を伺いました。慣れない地で働くことの難しさや楽しさ、中国と

## 海外インターンシップ訪問先紹介

2014年12月、移動キャンパスを終えた私達は中国と韓国に分かれ企業訪問をさせて頂きました。暖かく迎えて下さった関係者のみなさま、本当にありがとうございました。

中国

**パナソニック 広州支店**  
人材サービス事業のパナソニック様で8日間のインターンを行いました。広州で働く日本人の皆様への訪問や、中国人学生の就職観調査、面接の立ち会いなど就職活動を前に多くのことを勉強させていただきました。

中国

**PwC 広州事務所**  
国際会計事務所であるPwC様に行ってきました。文書の翻訳や資料の作成、セミナー準備などで日系企業様のサポートをさせていただきました。

中国

**江西财经大学**  
江西省南昌市にある日本語学科に行ってきました。授業研修や学生との交流はもちろん、教材作成のためのアンケートやエラー調査もさせて頂きました。

韓国

**チョノ食品**  
韓国を代表する健康食品会社です。徹底的に衛生管理へこだわった現場の製造ラインを見せてもらいました。ちなみに、会長は自らCMに出演するなど韓国では有名人。

韓国

**テソン酒造**  
釜山を中心に展開する土着の酒造会社です。瓶が大量生産される製造ラインでは加熱や発酵などが行われ、美味しく作るための工夫が凝らされていました。

韓国

**トータルソフトバンク**  
釜山を中心に展開する海運・物流産業のソフトウェア開発を行っているグローバル企業です。企業見学では溶接作業やクレーンの操作を疑似体験させてもらいました。

## ◆立命館学生 ザックリ 授業概要◆

- 2012年(1回生)**  
前期 ○プログラム説明会○候補生選抜○語学レッスンスタート  
8月 ○3ヵ国ショートステイ…お試して3ヵ国に1週間ずつ滞在。  
12月 ○CAP学生正式決定○短期語学研修(上海/ソウル)
- 2013年(2回生) 移動キャンパス(1回目) スタート**  
2~4月 広東外語外貿大学学期  
主な授業 ○中国語(読解・会話)約8コマ×(80分)  
○中国文化体験…太極拳や剪紙など。  
○在広州日本国総領事館訪問○開平へ文化研修  
○広州・豊田自動車工場見学
- 5月~7月 立命館大学学期(シェアハウスで30人共同生活)  
主な授業 ○中国語・韓国語  
○CAP演習…平和ミュージアム研修、個人発表など。  
○日本文化講義…京都に根付く文化と地域文化への理解。  
○東北被災地研修
- 9~12月 東西大学学期  
主な授業 ○韓国語(読解・会話・作文)16コマ×(50分)  
○韓国文化体験…テコンドー、キムチ作り、博物館見学等。  
○韓国社会研究…グループ発表。「韓国の茶道や秋月文化など」  
○スローシティ×文化探訪 第1弾(全羅南道や青山島など)  
○キャンパスアジア事業団協議会…他大学のCAPと交流  
○国際人文文化祭典2013
- 2014年(3回生) 移動キャンパス(2回目) スタート**  
2~4月 広東外語外貿大学学期  
主な授業 ○中国語(読解・会話・作文)約8コマ×(80分)  
○中国地域研究…グループ発表。  
→中国の社会問題や中国神話について。
- 5月~7月 立命館大学学期(再びシェアハウス)  
主な授業 ○中国語・韓国語  
○CAP演習…グループ発表。「20年後の東アジアへの提言」  
○ワーキングアジア…日系企業3社による講演会・懇親会  
○日中韓キャンパスアジア国際フォーラム  
○立命館高校(宇治・守山)の学生と交流
- 9~12月 東西大学学期  
主な授業 ○韓国語(読解・会話・作文)9コマ×(50分)  
○韓国地域研究…グループ発表。「領土問題や歴史問題など」  
○スローシティ×文化探訪 第2弾(全羅道)  
○修了式
- 12月中旬 海外インターンシップ**



待ちながら見守っていると思います。

キャンパスアジアで学んだことを将来に向けてどう花開かせていくのか、これからが本当の正念場だと思います。大いに期待をさせてもらいました。

共同生活をする京都のシェアハウスに招いてもらい、手料理をご馳走になったこともありました。中国、韓国の学生さん達は、一生懸命に日本語で喋りかけてくれ、また中国、韓国のお料理も大変美味しくて、私もいい経験をさせてもらいました。

中国、韓国に滞在中は娘からは、ほとんど連絡が無いので、キャンパスアジアのブログで安否確認をしていました。親の心配をよそに、勉強以外にも色々な経験をさせてもらい、充実した日々を送っているのがよくわかりました。

### 山本桜さんより



「応募してみようと思う」と娘が言い出したキャンパスアジア・プログラム。英語圏に留学すると予想していたのに「なんで中国と韓国なん？」と驚いたのが、一番最初でした。

立命館大学に進学決定後「キャンパスアジア」の要項を見つけた時、本人にとってピタリの大学(学部)ではないかと思いましたが、それまでに韓国語を自主勉強したり、韓国に行ったりして、かなり韓国に興味をもっていましたし、ホームステイしてみたいようなことも言うていたので。しかも大学からの支援で学べるなんていいじゃない!と。しかし地元から離れたことがないのに、突然地元どころか国外に行くということと大きな環境の変化に戸惑う姿に正直心配もしました。実際本人も不安があったみたいですが、何とか新しい環境に慣れてきたところ「キャンパスアジア」が終了しました。よくよく考えてみれば昔から慣れるのには時間がかかる分、慣れてしまえばのめり込んで吸収してしまつてころがありました。2年間の「キャンパスアジア」での勉強や貴重な体験が本人を大きく成長させてくれました。感謝しています。

### 吉積真紀さんより

吉積皓平さんのお母さん



坂下 祥太郎



薛植华



吉積 皓平



박진영



丸山 紗代



外山 未祐



김선민



鎌倉 冬海



曾文智



김준엽



山本 郁子



山本 すみれ



차영혜



정다현



王 渝灵



江佳业



肖睿



박제지나



이다혜



許逸倫



石田 晶子



文文



奥村 一穂



박소현



崔紫茵



黄昊



맹한재



谢洁娜



近藤 健一



윤은상

## 学生紹介

つなげる、ひろげる、キャンパスアジア ▶▶▶ FOCUS ON STUDENT



外山未裕

文学部文化芸術専攻。キャンパスアジア最終学期で日本人学生のリーダーを務める。

## 人との出会いが 教えてくれた世界

国に対する関心が生まれ、自分の知らない世界を見たいという思いが強くなりました。

ショートステイでの出会いから半年後、移動キャンパス1年目が始まりました。初めての長期留学のため不慣れなことも多く、直ぐに異文化に適応できたわけではありませんでした。しかし、その分毎日が新しい発見に満ちており、そこで感じた発見や疑問をいつでも話し合える友人が傍に

いました。この頃の私は中韓の友達と3か国の習慣について頻繁に話をしていました。食事のマナーなど日常的な習慣の違いに気付く度に、直接聞いてみることで自国との国の違いを比較していました。そういった時にも外国語で話すようにしていたおかげで、語学力と異文化理解力の両方が自然に身に付いていったのではないかと思います。

移動キャンパス2年目は、1年目に培った語学力と異文化理解の土台を武器に、現地の人との交流を広げたいと思っていました。そんな思いで積極的に行動した結果、行きつけのお店の人に顔

や名前を覚えてもらえたり、得るものは多かったです。英語ではなく取って中国・韓国語というローカル言語を学んだことで、こうして現地の人とも交流することができ、色々な人と会話することで自分の世界が広がりました。

この3年間で振り返ると、共に過ごした30人の友達を始め、私たちを厳しくも温かく指導下さった先生方や笑顔で接してくれた現地のの方々、本当にたくさんの人の顔が思い浮かびます。もし最初の出会いがなかったら、日中韓でこんなに多くの人との縁を結べる大学生活を送れなかったでしょう。キャンパスアジアを通して、人と出会い、自分の知らなかった世界に踏み込んでいく面白さを知り、積極的に行動していく人になれたと思います。中国・韓国に関心がなく、偏見を持っていた状態から、交流を通じて異文化を理解できるまで変わったのは、私にとって大きな成長でした。大学生活で築いた人との絆や思い出を大切に、これからも東アジアだけに留まらず様々な国の人と出会い、海外の人との交流を続けていきたいと思っています。

(外山未祐)

本紙だけではお伝えできなかった内容があります。

YouTube



授業や行事の様子、恋チュンも踊っていたりなんかしたりしちゃったりして。

YOUTUBEで「キャンパスアジア」や「CAP 立命館」などで検索してみてください。他大学のキャンパスアジアもヒットしますので立命館のをクリック!!

ユーチューブ



CAPブログ



日中韓の学生が思ったことを書いています。海外インターンの感想もここで見られます。

日中韓のCAP学生が一週間ごとにブログを担当しました。各国滞在中に感じたことが独特の視線と言葉で表現されています。全部日本語です!!

つなげる、ひろげる、キャンパスアジア ▶▶▶ FOCUS ON STUDY

## 外国語を学ぶ『本当の』楽しさ

私が高校生の時、第2次韓流ブームが到来し、少女時代やKARAといったK-POPアイドルの人氣に火が点きました。その頃の私と言えば、日本語パージョンの曲を聞く程度、韓国語を勉強しようなんて考えは全くありませんでした。そんな私が大学でキャンパスアジア・プログラムに出会ったのは、初めはあんなに苦しい文字を覚えるだけの一苦勞、分らない↓面白くない↓勉強しないう悪循環が続いていました。そんな私に転機が訪れます。1回生の冬休みにソウルで韓国語研修を行った時のことでした。そこで日本語厳禁、「何が食べたいの?」と聞かれても「何でも大丈夫です」さえも言えず、本当に何かしたい思いをし、それからは、私が行った行動は、その時知り合った韓国人学生と、毎日韓国語

で連絡を取るというものでした。どこに行くにも辞書を持ち歩き、知らない表現が出れば分かるまで説明を乞い、面白い表現を習う度にメモをしていました。それが積み重なっていった結果、今では街中で困っている観光客に自分から声をかけ、世間話を交わしながら道案内ができるほどになりました。私は、キャンパスアジアを通じて語学を学ぶ本当の楽しさを知りました。大学受験のために英語を勉強していた時は、志望校合格がゴールになっていました。しかし、大学に入ってから勉強したものを実際に使ってみる場所ができました。私が話す外国語でも理解して、それに答えてくれる人ができました。とはいえず、まだまだネイティブレベルには程遠いので、これからも勉強は続けていきたいと思っています。(山本すみれ)



しゃおれいへ

移動キャンパスが終わっちゃったね。今振り返ると本当に色々なことがあったなあ。実は私のお爺ちゃんは、私が中国に行くことを心配していました。まだ日本では、中国人は日本人が嫌いだというイメージを持つ人が多いから。ごめんね。でも実際は、日本人の私に親切にしてくれた人が沢山いたし、お爺ちゃんは杞憂に終わったね(笑)

中国で驚いたことは、お年寄りから子どもまで様々な年代の人が、大学の公園やグラウンドで遊んだり、運動したりしてたこと!私は中国のそんな自由な雰囲気が大好きだよ。その反面、自由ではない一面もあって、授業で元々使っていた教科書が政治的な理由で変更されたことがあったよね。その時私は、中国政府の影響力の強さに鳥肌が立ったよ。私の中国に対する印象は、「自由」と「制約」です。でも私はまだ中国のほんの一部しか知らないね。これから沢山知っていくためにも、肖蓉、遊びに行くから宜しくね(笑)

ここまで私の中国に対するイメージを書いたけど、肖蓉は日本についてどう思っていますか?(笑)

石田晶子

レジナへ

韓国はさ、反日感情が強いと言われてるけど個人で付き合う分にはそんな事感じなくて。

まあ、前に韓国人のおじちゃんに日本嫌いって言われたことはあったなあ。その時にひたすら日本に対する文句言われたの。CAPに参加する前の私だったら、「なんだよ、このおっさん」ってただむっとするだけだったと思う。でも、その時の私は「そうですか。でも、私は韓国が好きです」って言える余裕?ができていた。というか、そういう気持ちが大切だと

CAPで学んだよ。お互い理解するにはまず自分から歩み寄らなくちゃね。

でもね、こういうおじちゃんみたいなことは本当に1~2度しなくて留学中に出会った韓国人は私が日本人でも態度を変えることなく優しく接してくれる人たちばかりだった。世話焼きが過ぎるおばちゃんとかもいてさ(笑)いろいろな人に助けもらった。なるほど韓国人は情が深いってこういう事かって思ったよ。レジナも留学する前は日本で日本人にいじめられたらどうしようって思ってたとか言ってたよね。日本に来てイメージはどう変わった?

奥村一穂

## 中国語の文字で伝える難しさ

私は中国で生まれて、幼い頃に日本に移住してきました。両親共に中国人なので家の中では中国語を聞きながら育ってききました。そのため、日常会話は大変な問題もなくキャンパスアジアに入ってから中国語は大丈夫だろうと思っていました。が、それは大きな間違いでした。移動キャンパス2年目の中国で正月文化についてレポートを書いた時でした。中国語は口語体と文語体が明確に分かれており、レポートに相応しい単語を使わないといけない。しかし、私は小学生レベルの語彙力しか持ち合わせておらず、自分の言いたいことを中々文章にするのができませんでした。会話の時でも少し間違っていて、雰囲気や身振り手振りで自分の言いたいことを伝えられましたが、レポートは

うはいきません。年間、家では中国語に囲まれて育ってきたのに、思うように中国語で文章を書くことができない自分に苛立ちを覚え、もっと文章を書く練習が必要であることを痛感した私は、中国の従兄妹と頻繁にチャットをするようにしました。キャンパスアジア学生相手だといえど甘えが出て、日本語で返してしまいうことがあったので、中国語しか通じない相手に対し自分の言いたいことを的確に伝える練習をしました。その結果、今では自分の言いたいことを素早く文章化し、より正確な文章が書けるようになりました。今まではレポートを書いたら中国人学生に見せていたのですが、今後は自分ひとりの力で書いたものをそのまま提出できるぐらいのレベルまで高めていきたいです。(鎌倉冬梅)

石田へ

石田と離れてもう2ヶ月くらいだよ。でも、石田は韓国の寮で歌っている「天籟の声」まだ耳につきまといてる(笑)。私が日本のごみ分類とか、地下鉄だけじゃなくて、バスも時間によってくることなどから、「ルール」を感じた。そのほか、日本人がとっても親切だと思う~道に迷ったとき、道案内までもしてくれた。本当に感動した。石田からもらう手紙に石田が中国に対する印象は「自由」と「制約」ということあった。実は、そのほか、中国がいرونなおもしろい面があるよ~だから、また中国に遊びにきてね。案内してあげるよ(笑)

しゃおれい



一穂へ

韓国で良くない記憶があったのに、それでもずっと韓国についていい思いを持ってよかった。私もかすほと同じような経験があった。日本に行く前、日本人は韓国が嫌いと聞いてちょっと心配だったけど実際行ったらみんな韓国人と韓国文化が好きな人も多くてびっくりしたよ。でも1度だけ嫌韓デモをしているおじいさんを見たことがある。その時はちょっと悲しかったけど、いい感情を持っている人がもっと多いと知ってたから大丈夫だった。そして、日本人はみんな他人に建前で接するという先入観があったけど、CAPの日本学生たちと付き合いながら日本人も本音で人に接するんだと分かったよ。CAPで日本について学ぶことができて本当によかった!そしてかすほのようないい友達もできて本当に嬉しかった。レジナ

